

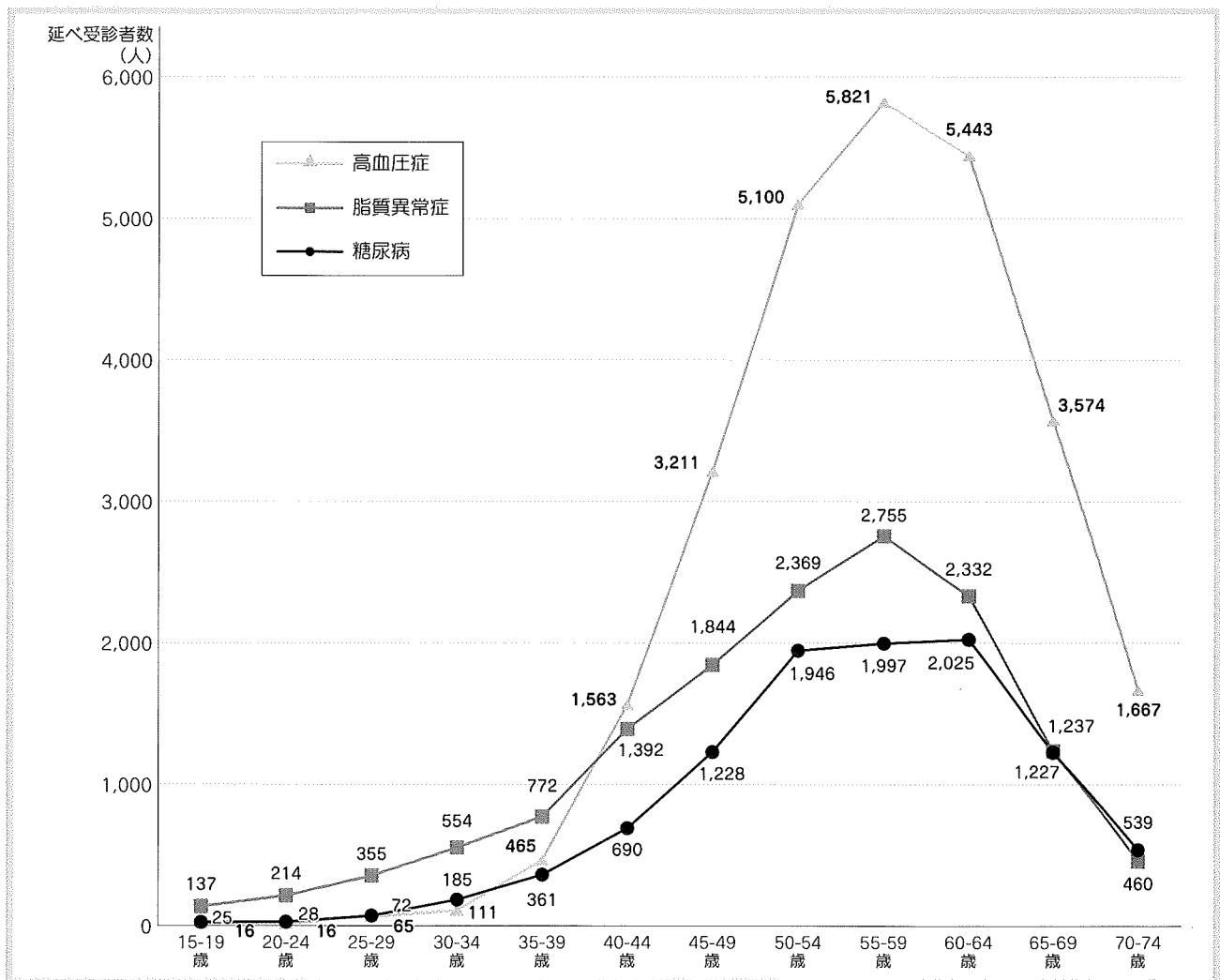
Pick Up



生活習慣病関連で
医療機関にかかった方を
ピックアップしました

高血圧症・脂質異常症・糖尿病の 重症化予防がカギ

生活習慣病関連疾病の年齢階層化別受診者数（15～74歳）



※脂質異常症には、痛風等の原因となる高尿酸血症が含まれます。

例年と同様、35歳以降の受診者数が急増しています。平成27年度は高血圧症の受診者数が一時的に低下しましたが、平成28年度は再び増加に転じました。その他、脂質異常症、糖尿病については2年連続で増加傾向です（右表参照）。

35歳以上の受診者数の経年比較（人）

	平成27年度(対前年度)	平成28年度(対前年度)
高血圧症	26,555 (-391)	26,844 (+289)
脂質異常症	12,701 (+753)	13,161 (+460)
糖尿病	9,968 (+204)	10,013 (+45)
延べ受診者数	49,224 (+566)	50,018 (+794)

受診者数が増加し、レセプト件数は増加していても、これらの疾患の医療費は減少しています（前ページ参照）。これらの疾患は放置することにより、個々の生活の質や医療費に大きく影響する、心疾患（狭心症・心筋梗塞）、脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）等の重症化につながります。当組合では、40歳以上で各種健診の結果、血圧、血中脂質、血糖の3項目において、治療が必要な方に対し、受診勧奨文を送付していますので、届いた方は速やかに受診しましょう。また、再検査・精密検査に該当した方も必ず受診し、必要に応じて治療を受けることと並行し、生活習慣の改善に努めましょう。